

上島町消防だより

炎のない上島町にしようね

く幼年消防クラブ防火パレードく

11月2日く11月10日にかけて、町内各保育所の園児により、全国秋の火災予防運動の一環として、防火パレードが実施されました。



岩城保育所



生名保育所



魚島保育所



弓削保育所

過去の災害や火災から学ぶ

1月17日 防災とボランティアの日

阪神・淡路大震災（平成7年1月17日発生）を契機に、同年12月、広く国民が災害時におけるボランティア活動及び自主的な防災活動についての認識を深めるとともに、災害への備えの充実・強化を図ることを目的として「防災とボランティアの日」（毎年1月17日）及び「防災とボランティア週間」（毎年1月15日く21日）が創設されました。

1月26日 文化財防火デー

昭和24年1月26日に、現存する世界最古の木造建築物である法隆寺の金堂が炎上し、壁画が焼損してしまいました。このことをきっかけに、昭和30年1月26日に「文化財防火デー」が制定され、私たちの住む上島町にも、木造建築物として、弓削地区の定光寺観音堂、岩城地区の祥雲寺観音堂が「国指定重要文化財」に指定されています。



弓削地区
定光寺観音堂



岩城地区
祥雲寺観音堂

この両日の教訓を活かし、今一度、家庭や地域での防災や防火意識、ボランティア活動などについて、考えてみましょう。

平成21年出動件数

年別	摘要	火 災	救 急
平成21年(11月)		0	42
平成20年(11月)		0	31
昨年比		±0	+11
21年累計		5	448

平成21年11月30日現在

火災・救急・救助は119番

※携帯電話からでもつながりますが、発信場所によっては他の消防本部につながる場合もあります。

上島町消防本部
77-4118(代)

愛媛県消防職員意見発表会で

「努力賞」を受賞

11月18日(水)、東温市川内公民館大ホールにおいて愛媛県消防職員意見発表会が開催されました。

この発表会は、各消防本部から選抜された消防職員が、消防業務の諸問題に関する一層の知識の研さんや意識の高揚を図るため、毎年開催されています。

上島町消防本部代表の池上幸大消防士は、「人生の分岐点」と題して意見の発表を行い、内容や態度、表現力が評価され、努力賞を受賞しました。



しまなみ農業だより

はれひめのお話し



近頃は農業をされていない方でも「はれひめ」というのを見聞きされる機会が増え、一度くらいは食されたこともあるのではないのでしょうか。みかんのようだけれどちょっと色が悪くて、甘いのもあれば味のないのに当たったり：今月は只今売り出し中の新品種「はれひめ」をご紹介します。

品種の来歴と果実の特徴

「はれひめ」を一言で言うると、「温州みかんの食べやすさにオレンジの香りを加えた新品種のみかん」です。日本で主力の温州みかんは食べやすく味が良いのですが、香りが無いのが欠点で、以前から「香り高い温州みかん」というのは大きな育種目標でした。図1で示すはれひめの系統図を見ると、執拗なまでにみかん類（タンゼリン）を掛け合わせており、また特徴である香りはトロピタを祖とする清見由来のもので、図中に出ているクレメンチンやオーランド、

オセオラといった品種も味が良いようです。こうした良質のみかんの組み合わせによってはれひめは誕生しました。酸抜けは早く早生温州並み、形は温州みかんとよく似ておりやや大きめ。年内はまず浮皮になりません。一番の特徴である香りは、果皮にやや緑が残る7～8分着色の頃がもっとも高いようです。ただし着色はやや遅くまた赤みが淡いため中生温州が主力となる12月初～中旬は見目で温州みかんに負けてしまいます。しかし高糖度果の味の良さは抜群で、一度食べていただくと次回も欲しいといわれる方が多いようです。

樹の特性と栽培上の要点

はれひめは前年度多結実した樹枝にも開花が見られますが、生理落果が多く結果として温州みかんよりも隔年結果性が強く表れます。とはいえある程度着果負担をかけないと、玉ぞろいが悪くなり品質も上がりません。主枝・亜主枝別、あるいは樹別といった大きい単位での交互結実が無難です。また開花終了後の5月末～6月に極度の乾燥を受けると、生理落果が激しくなります。幼果期でも晴天が続くようなら灌水が必要です。果実は温州みかんに比べ縦径がやや長くなり、11月に入っても肥大が続くことから結果として温州よりも1階級以上大きくなるうとし、太玉になってしまいうと糖度の低い「味なし」の果実になってしまいます。そこで夏～初秋季まではなるべく着果負担をかけ、摘果は温州の仕上げ摘果を終えてから取り掛かりますが、新梢が少ない結果多寡樹では逆に乾燥の影響を受けやすくなり、樹勢低下や肥大不良が起こつてしまいます。要は葉数を確保し樹勢を維持しやすい条件でマルチ等によって乾燥ストレスを与え品質を高めていく、という管理が必要で、乾燥と灌水、新葉と着果負担という相反した条件を同時に必要とするため、こうした面からも交互結実法が利用しやすいと思われま

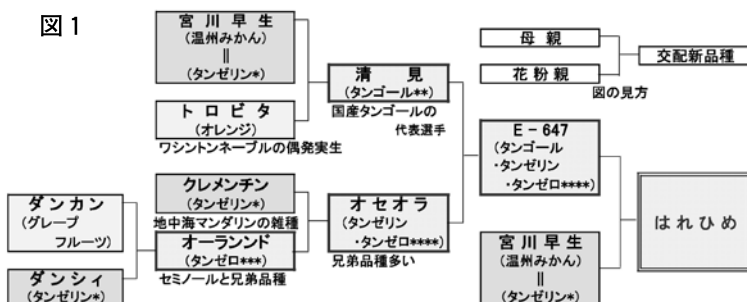
す。果皮は温州みかんよりも厚く浮きにくいので、一見しっかりしているように見えますが、温州みかんに比べしなやかさに欠け、突起物に当たれば穴が開きやすく、硬いものと擦れると擦り傷を生じ、これらの傷から腐敗が始まることが多いようです。収穫時は採り籠等に小石や小枝を混入させないこと、また出荷調整中も擦り傷等を生じないよう注意を払う必要があります。

収穫後の果実を長く取っておくと、果皮が水浸状に腐敗するか、外観上の変化は少ないものの果肉の水分が失われ極度に軽くなる、という変化をします。クエン酸含量は0.4%を下回りいわゆる味ボケとなりますので、長期の貯蔵は向かないようです。新しいブランド化戦略「瀬戸の晴れ

姫

今年度からJAおちいまばりでははれひめの販売に力を入れるべく、マルチ栽培を行って糖度を高めたものを「瀬戸の晴れ姫」としてブランド化し、12月～1月に販売しています。しまなみ共選では特に1月販売に力を入れたと考えていますが、生産者サイドとして1月出荷に対応するには、マルチ栽培を必須として特に年内はクエン酸を維持し、残す果実は中玉に徹することが必要です。

図1



* : タンゼリンとは温州、地中海マンダリンなどみかん類
 ** : タンゴールとは(タンゼリン:母親) × (オレンジ:花粉親)
 *** : タンゼロとは(文旦やグレープフルーツ:母親) × (タンゼリン:花粉親)
 **** : タンゼリン・タンゼロとは(タンゼリン:母親) × (タンゼロ:花粉親) 以下同様